

三重県鈴鹿市白子方言の助数詞

佐藤 虎男

Ⅰ. はじめに

- (1) 調査対象地：鈴鹿市は、津市と四日市市との中間に位置し、東は伊勢湾岸から西は鈴鹿山麓まで広がる田園都市である。調査対象地の白子は、その鈴鹿市の海岸に臨んだ町並みである。旧河芸(がが)郡白子(しな)町は、北から南へ江島、白子、および寺家(ぢ)の三大字が切れ目なくつながり、学区も一つであった。方言上ほとんど差がないといってよい。今回の教示者はその白子と江島の人である。農業・漁業・商業・工業などの複合する社会であるが、近鉄線路から西に開けた工場群や鈴鹿サーキット、それに伴う新興住宅地などのため、近鉄白子駅は特急停車駅になり、人口流動が大きくなっている。
- (2) 調査年月日：1996年3月31日(日)午後2時30分～4時20分
1996年4月19日(金)午前10時30分～4時10分
1996年5月21日(火)午後1時5分から1時間、24日2時間。
- (3) 教示者：(a)松井安夫 大正15年7月24日生(69歳)外住歴なし(白子)
(敬称略) 三枝子夫人(市内隣接集落玉垣より入嫁、部分的に同席。)
(b)佐藤好男 大正15年9月30日生(69歳)外住歴なし(江島)
(c)佐藤昌平 昭和4年12月15日生(66歳)外住歴8年(江島)
*(a)の資料を中心とし、農業関係を(b)で補い、全体の確認を(c)で行った。なお、漁業関係の数項目については、県水産技術センターの石川貴朗氏(志摩郡和具の生まれ、白子在住30年)にもご教示いただいた。
(d)樋口範之 昭和49年2月24日生(22歳)外住歴なし(白子)
*(d)は年層差を見るために行った。
- (4) 調査者・調査場所：佐藤虎男・(a)(b)(c)は各教示者宅、(d)は大学研究室。
- (5) 調査方法：当該調査票に基づいた質問調査を主とした。
- (6) 表記方法：アクセントは高低2段階の傍線表記とした。

Ⅱ. 調査結果

A. 天地

1. 星：ヒトツ、フタツ、ミツツ、ヨツツ、ト一。
2. 波：あまり数えない。もし数えれば、ヒトツ、フタツ、ミツツ、ヨツツ、ト一。
3. つらら：イッボン、ニホン、サンボン、シホン((c)はヨンホン)、ジュッボン。
4. 雪だるま：ヒトツ、フタツ、ミツツ、ヨツツ、ト一。
5. 小石：ヒトツ、フタツ、ミツツ、ヨツツ、ジュッコ((c)はト一)。
6. 集落：数えることはめったにない。強いて数えようとするれば、ヒトツ、フタツ、ミツ

ツ、ヨツツ、下ー、だろうが、下ーまで数えることは実際はありえない。

⑦. 気温: イチド・ニド・サド・ヨド・ジュード。

B. 動植物

1. 牛: イットー・ニトー・サントー・ヨントー・ジュットー。(c)によれば、早く数えるときには、ヒー、ラー、ミー、ヨー、下ー、またはイチ、ニ、サン、シ、
ジュ。普通は、イッピキ、ニヒキ、サンピキ、シヒキ (ヨンヒキとも言う)、
ジュッピキ。公的な場席では、イットー、ニトー、サントー、ヨントー、ジュ
ットー。
2. 犬: イッピキ、ニヒキ、サンピキ、ヨンヒキ ((c)はシヒキ)、ジュッピキ。
3. 熊: これもあまり数えない。動物園などでは、イットー・ニトー・サントー・ヨ
ントー・ジュットー。(c)によれば、イッピキ、ニヒキ、サンピキ、シヒキ (または
ヨンヒキ)、ジュッピキ。
4. ねずみ: イッピキ、ニヒキ、サンピキ、シヒキ (またはヨンヒキ)、ジュッピキ。
5. 兎: イッピキ、ニヒキ、サンピキ、シヒキ (またはヨンヒキ)、ジュッピキ。〈助
数詞に「ワ (羽)」は用いない。また、二羽まとめて数えることはない。(c)によ
れば、雄と雌とをまとめて数えるには、ヒトツガイ、フタツガイ、ミーツガイ、
ヨーツガイ、トーツガイという数え方がある。
6. 鶏: イチワ、ニワ、サンバ、シワ ((c)はヨンワ)、ジュッパ。
7. 蛇: イッピキ、ニヒキ、サンピキ、ヨンヒキ ((c)はシヒキとも)、ジュッピキ。
8. おたまじゃくし: イッピキ、ニヒキ、サンピキ、シヒキ ((c)はヨンヒキとも)、ジ
ュッピキ
9. とかげ: イッピキ、ニヒキ、サンピキ、シヒキ (またはヨンヒキ)、ジュッピキ。
10. 蟬: イッピキ、ニヒキ、サンピキ、ヨンヒキ ((c)はシヒキとも)、ジュッピキ。
11. 蠅: イッピキ、ニヒキ、サンピキ、ヨンヒキ ((c)はシヒキとも)、ジュッピキ。
12. 蚤: イッピキ、ニヒキ、サンピキ、シヒキ (またはヨンヒキ)、ジュッピキ。
13. 鳥賊: イッピキ、ニヒキ、サンピキ、シヒキ (またはヨンヒキ)、ジュッピキ。松
井夫人はイチマイ・ニマイと数えるという。またイッパイ、ニハイ、サンバイ、
シハイ ((c)はヨンハイとも)、ジュッバイとも数えるという。(c)によれば、これ
は手慣れた言い方。「ハイ (杯)」は蟹を数える時にもよく使う。が、今時の若
い者はもっぱら「ヒキ」である。なお、蝸については、「ハイ」を言う (a)、
言わない (c) と意見が別れた。
14. 木: イッポン、ニホン、サンボン、シホン ((c)はヨンホンとも)、ジュッポン。(c)
によれば、「カブ」は伐採した後の切り株を数えるときには使うが、立ち木につ
いては言わない。切り株の意味でなら、ヒトカブ、フタカブ、ミカブ、ヨカブ、
トカブ。木の太さや荷物の大きさは、ヒトカカエ・フタカカエと言う。3以上

はあまり言わない。

15. 木の葉：イチマイ、ニマイ、サンマイ、ヨンマイ、ジューマイ。
16. 竹：イッポソ、ニホソ、サンボソ、シホソ、ジュッポソ。竹の節は、ヒトフシ・フタフシ・ミフシ・ヨフシ・トーフシ。
17. 植木（鉢植え）：あまり数えた経験がないが、言え、ヒトハチ、フタハチ、ミハチ、ヨハチ、ジュッパチだろう。また、イッパチ・ニハチ・サンパチ・ヨンパチ・ジュッパチともいう。
18. 花（切り花）：イッポソ、ニホソ、サンボソ、シホソ ((c)はヨソソ)、ジュッポソ。
19. 花（そのもの）：あまり数えない。言え、ヒトツ、フタツ、ミツ、ヨツ、トー（ジュ）。「リン」はあまり言わぬ。
20. 花びら（各々）：イチマイ、ニマイ、サンマイ、ヨマイ ((c)はヨソマイ)、ジューマイ。

C. 人

1. 人：ヒトリ、フタリ、サンニン、ヨソニン ((c)はヨソニン)、ジューニン。なお、80歳以上になると、4人をヨッタリと言う人がある。(c)によれば、式場などで尊敬して数える時には、オヒトカタ、オフタカタ、オサンカタ、までは数えるが、これ以上はないだろう。
2. 腕：イッポソ、ニホソまでは言えるが、それ以上はない。(c)によれば、数えるのではなく、腕自体を指すときには、カタウデ・リョウウデのように言うのが普通。
3. 足：イッポソ、ニホソまでが普通。(c)によれば、まれに、男の子に限ってサンボンアシなどと言うことがある。動物なら、サンボソ、ヨソソソまで数える。
4. 歩幅：センチで数える。「歩幅」が歩数の意味なら、イッポ、ニホ、サンボ、シホ ((c)はヨソホ)、ジュッポ。
5. 指：イッポソ、ニホソ、サンボソ、シホソ ((c)ヨソソソとも)、ジュッポソ。
6. 毛髪：イッポソ、ニホソ、サンボソ、シホソ ((c)ヨソソソとも)、ジュッポソ。
7. 歯：イッポソ、ニホソ、サンボソ、シホソ ((c)ヨソソソ)、ジュッポソ。
8. しわ：あまり数えない。(c)は、もし数えれば、イッポソ、ニホソ、サンボソ、ヨソソソ、ジュッポソ。
9. ほくろ：ヒトツ、フタツ、ミツ、ヨツ、ジュー ((c)トー)。
- ⑩. 涙：ヒトツツ・フタツツ。イッテキ・ニテキ。ヒトスジ・フタスジ。いずれも2までが普通。
- ⑪. 遺体：イッタイ・ニタイ・サンタイ・ヨソタイ・ジュッタイ。祭神はヒトハシラ・フタハシラ。

D. 農業

1. 田：畦に囲まれた一区画の田をイチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイと数える。自分の田を指すのに、「あの道から2マイメの田一やぞ。」のように言う。これとは別にまたイッタソ・ニタソ・サンダソ・ヨソタソ・ジュッタソのようにも数える。つまりタンは、必ずしも厳密な意味での面積の単位ではなくて、たとえ3畝(世)の面積でもイッタソと数える。棚田のようなところでなく、伊勢平野のまっただ中だから、こういう数え方がしぜんに発生したものか。
2. 畑：これは、マイは言わない。面積の単位タンとかせとかで数える。
3. 畝：イッポソ・ニホソ・サンボソ・ヨソホソ・ジュッポソ。あるいはヒトウネ・フタウネ・ミウネ・ヨウウネ・トウネ。
4. 堆肥の山：牛小屋の敷藁を肥として出すくらいのことだから、いくつも山ができるほどにはない。したがって山を数えることがない。あえていえば、ヒトヤマ、フタヤマくらいだろう。
5. 堆肥を籠で担いだときの肥：籠で担ぐことはしない。牛車の荷台に積んで運ぶのであるから、イチダイ・ニダイというだろう。
6. 堆肥をそりに載せた肥：そりを使わない。
7. 天秤棒で担いだ2桶の肥：イッカ・ニカ・サンカ・ヨソカ・ジュッカ。
8. 7の桶の各々：カタッポ (イッカの半分の意)。ハンカとも言った。(a)はシトツ、フタツ、ミツツ、ヨソツツ、ジュウ (c)ト一。
9. 天秤棒：イッポソ・ニホソ・サンボソ・シホソ (c)ヨソホソ)、ジュッポソ。
10. 肥樽：ヒトツ、フタツ、ミツツ、ヨソツツ、ジュウ (c)ト一。
11. 田おこしをしたひとかたまりの土：あまり数えることがない。よく分からない。あえて言えば、ヒトツ、フタツ、ミツツ、ヨソツツ、ト一。
12. 代掻(しろかき)の回数：？
13. 苗代の区画：3尺×10間ほどの区画であるが、ヒトツ・フタツ・ミツツ・ヨソツツ・ト一と数える。
14. 種切(蒔くときの単位)：イッショー・ニショー・サンジョー・ヨンショー。
15. 野菜の種：粒を数える時は、ヒトツツ・フタツツ・ミツツポ・ヨソツツポ・ジュツツツポ (c)トツツ)。量を数える時はショー(升)で。
16. 稲の苗箱(機械植えの場合)：シトツ、フタツ、ミツツ、ヨソツツ、ト一。イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイとも数えるだろう。
17. 手植えの時の苗束：シトツ、フタツ、ミツツ、ヨソツツ、ト一。
18. 苗の一握り：数えることがない。言えばヒトニギリ・フタニギリくらいか。
19. 苗の植え筋：イチジョー・ニジョー・サンジョー・ヨンジョー・ジュージョー。
20. 稲束：イチワ・ニワ・サンバ・シワ (ヨソワとも)・ジュッバ。
21. <あるまとまりでの数え方があるか>稲束を12ワ束ねたのをイソツク・ニソツク・

サンゾク・ヨソク・ジュソクと数える。

22. 稲架の支柱：稲架のことをハサと言う。その支柱を数えるのはやはり、イッボン・ニホン・サンボン・ヨソボン・ジュッボンと数えるだろう。
23. 稲架の横木：横木のことをナルと言う。これもイッボン・ニホンと数えるだろう。
24. 稲むら：稲むらをスズミと言うが、数えるのはシトツ、フタツ、ミツ、ヨツ、ト。
25. 鳥追いの目玉：あえて言えばシトツ、フタツ、ミツ、ヨツ、ト。
26. かかし：シトツ、フタツ、ミツ、ヨツ、ト。
27. 稲の株：ヒトカブ・フタカブ・ミカブ・ヨカブ・トカブ。
28. 米俵：イッピョー・ニピョー・サンピョー・シピョー（ヨソピョーとも）・ジュッピョー。
29. 30 kg米袋：シトツ、フタツ、ミツ、ヨツ、ト。(a)は、ヒトフクロ・フタフクロ・ミーフクロ・ヨフクロ・トフクロ。
30. 耕運機：イチダイ・ニダイ・サンダイ・ヨソダイ・ジューダイ。
31. 鍬：イッチョー・ニチョー・サンチョー・ヨソチョー・ジュッチョー。
32. 鋤：イッチョー・ニチョー・サンチョー・ヨソチョー・ジュッチョー。
33. スコップ：イッチョー・ニチョー・サンチョー・ヨソチョー・ジュッチョー。またイッボン・ニホン・サンボン・シホン・ジュッボンとも。
34. 移植ごて（シャベル）：あまり数えぬ。シトツ・フタツ・ミツ・ヨツ、ト。
35. 鎌：イッチョー・ニチョー・サンチョー・ヨソチョー（ヒトツ・フタツのように数えることもある。）
36. 草蒔り用の籠に入れた草：牛用の草はソラフゴというふごに入れて運んだ。やはりシトツ、フタツ、ミツ、ヨツ、トだろう。
37. 槌：ふつう一軒に一つしかないものだから、数える必要がない。あえて言えば、シトツ・フタツ・ミツ・ヨツ、トか。
38. リヤカー：イチダイ・ニダイ・サンダイ・ヨソダイ・ジューダイ。
39. 笠：これも経験がない。あえて言えばシトツ・フタツ・ミツ・ヨツ、トか。
40. 一輪車：イチダイ・ニダイ・サンダイ・ヨソダイ・ジューダイ。
41. 蓑：これも数えたことがない。シトツ・フタツ・ミツ・ヨツ、トか。
42. 合羽：これも数えたことがない。シトツ・フタツ・ミツ・ヨツ、トか。(a)(c)は、イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨソマイ・ジューマイ（イッチャク・ニチャクのように言うかもしれぬが、やや正式の言い方になる。）
43. むしろ：イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨソマイ・ジューマイ。
44. 梯子：これも普通一軒に一つしかないものだ。あえて言えば、シトツ・フタツ・ミツ・ヨツ、ト。(a)(c)は、イッキャク・ニキョク・サンキョク・ヨソキョク

・ジュッキヤク。

E 衣服

1. 和服：イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイ。
2. 背広：イッチャク・ニチャク・サンチャク・ヨンチャク・ジュッチャク（正式にはミツゾロエを一着と言うが、上下二つ揃いでも一着と数える。）
3. ズボン：イッボン・ニホン・サンボン・シホン ((c)ヨンホン) ・ジュッボン。
4. シャツ：イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイ。
5. エプロン：イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイ。
6. おむつ：イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイ。紙製布製の別はない。
7. 手拭い・タオル：イッボン・ニホン・サンボン・シホン ((c)ヨンホン) ・ジュッボン。また、イチマイ・ニマイ・サンマイのようにも言う。どちらかといえば、日本手拭いはイッボン・ニホンと数え、タオルはイチマイ・ニマイのように数える傾向があるか。なお、昔はヒトスリ・フタスリとも数えた。
8. 帯：イッボン・ニホン・サンボン・シホン ((c)ヨンホン) ・ジュッボン。
9. 紐：イッボン・ニホン・サンボン・シホン ((c)ヨンホン) ・ジュッボン。
10. ボタン：ヒトツ・フタツ・ミツツ・ヨツツ・ト一。
11. 手袋（一組）：あまり数えない。普通はヒトツ・フタツ・ミツツ・ヨツツ・ト一。
(c)は、ヒトクミ・フタクミ・サンクミ・ヨククミ・ジュッククミ。
12. 靴下（一組）：イッソク・ニソク・サンゾク・ヨンソク・ジュッソク。
13. はきもの（一組）：イッソク・ニソク・サンゾク・ヨンソク・ジュッソク。
14. 麦わら帽子：ヒトツ・フタツ・ミツツ・ヨツツ・ト一。
15. 布団：イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイ。
16. 掛け布団と敷布団の一揃い：ヒトナガレ・フタナガレ・ミーナガレ・ヨーナガレ・ト一ナガレ。（四つの場合、ヨナガレとは言わない。必ずヨーナガレ。）
17. 敷布（シーツ）：イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイ。
18. 枕：ヒトツ・フタツ・ミツツ・ヨツツ・ト一。
19. 座布団：イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイ。
20. カーテン：イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイ。
- ㉑. ネクタイ：イッボン・ニホン・サンボン・シホン ((c)ヨンホン) ・ジュッボン。
- ㉒. ブラウス：イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイ。
- ㉓. 毛糸の玉：ヒトタマ・フタタマ・ミータマ・ヨータマ・ト一タマ。
- ㉔. 毛糸の認め：ヒトカセ・フタカセ・ミーカセ・ヨーカセ・ト一カセ。
- ㉕. 反物：イッタソ・ニタソ・サンダン・ヨントソ・ジュッタソ。
- ㉖. 編み物の横目：ヒトメ・フタメ・ミーメ・ヨーメ・ト一メ。

⑩. 編み物の縦目: $\overline{\text{イチダン}} \cdot \overline{\text{ニダン}} \cdot \overline{\text{サンダン}} \cdot \overline{\text{ヨندان}} \cdot \overline{\text{ジューダン}}$ 。

F. 食

1. 食事の回数: $\overline{\text{イッショク}} \cdot \overline{\text{ニショク}} \cdot \overline{\text{サンショク}} \cdot \overline{\text{ヨンショク}} \cdot \overline{\text{ジュッショク}}$ 。ただし、 $\overline{\text{ジュッショク}}$ などは普通使うことがない。 $\overline{\text{イッカイ}} \cdot \overline{\text{ニカイ}}$ のようにカイでも言える。また、まれに一食を $\overline{\text{ヒトカタケ}}$ という。「 $\overline{\text{ヒトカタケ}} \overline{\text{モケタ}}$ $\overline{\text{ア}}$ 。」(余所で御馳走になって一食もうけたね。)これは二以上はない。
2. 料理の品数: $\overline{\text{ヒトシナ}} \cdot \overline{\text{フタシナ}} \cdot \overline{\text{ミ一シナ}} \cdot \overline{\text{ヨ一シナ}} \cdot \overline{\text{ト一シナ}}$ 。(c)は、 $\overline{\text{イッピン}} \cdot \overline{\text{ニピン}} \cdot \overline{\text{サンピン}} \cdot \overline{\text{ヨンピン}} \cdot \overline{\text{ジュッピン}}$ とも言う。
3. 飯: $\overline{\text{イッパイ}} \cdot \overline{\text{ニハイ}} \cdot \overline{\text{サンバイ}} \cdot \overline{\text{シハイ}}$ ((c)は $\overline{\text{ヨンハイ}}$)・ $\overline{\text{ジュッパイ}}$ 。また、昔は祖母や母が $\overline{\text{イチゼン}}$ ($\overline{\text{イツェン}}$ とも)・ $\overline{\text{ニゼン}} \cdot \overline{\text{サンゼン}} \cdot \overline{\text{ヨンゼン}}$ ($\overline{\text{ジュ一ゼン}}$ までは言わない。)などと数えていた。今でも言うことがある。
4. 汁: $\overline{\text{イッパイ}} \cdot \overline{\text{ニハイ}} \cdot \overline{\text{サンバイ}} \cdot \overline{\text{シハイ}}$ ((c)は $\overline{\text{ヨンハイ}}$)・ $\overline{\text{ジュッパイ}}$ 。
5. おにぎり: $\overline{\text{ヒトツ}} \cdot \overline{\text{フタツ}} \cdot \overline{\text{ミツ}} \cdot \overline{\text{ヨツ}} \cdot \overline{\text{ト一}}$ 。または、 $\overline{\text{イッコ}} \cdot \overline{\text{ニコ}} \cdot \overline{\text{サンコ}} \cdot \overline{\text{ヨンコ}} \cdot \overline{\text{ジュッコ}}$ 。前者の方が普通。後者は若い者に多い。
6. うどん (乾麺) : $\overline{\text{イッパ}} \cdot \overline{\text{ニワ}} \cdot \overline{\text{サンバ}} \cdot \overline{\text{シワ}}$ ((c)は $\overline{\text{ヨンワ}}$)・ $\overline{\text{ジュッパ}}$ 。
7. うどん (ゆで麺) : $\overline{\text{ヒトタマ}} \cdot \overline{\text{フタタマ}} \cdot \overline{\text{ミ一タマ}} \cdot \overline{\text{ヨ一タマ}} \cdot \overline{\text{ジュッタマ}}$ 。
8. 食パン (切つてある物) : $\overline{\text{イチマイ}} \cdot \overline{\text{ニマイ}} \cdot \overline{\text{サンマイ}} \cdot \overline{\text{ヨンマイ}} \cdot \overline{\text{ジュ一マイ}}$ 。
9. 食パン (切つてない物) : 普通は、 $\overline{\text{イッボン}} \cdot \overline{\text{ニホン}} \cdot \overline{\text{サンボン}} \cdot \overline{\text{シホン}}$ ((c) $\overline{\text{ヨンホン}}$)・ $\overline{\text{ジュッボン}}$ 。正式には、 $\overline{\text{イッキン}} \cdot \overline{\text{ニキン}} \cdot \overline{\text{サンギン}} \cdot \overline{\text{ヨンキン}} \cdot \overline{\text{ジュッキン}}$ 。
10. 菓子パン: $\overline{\text{ヒトツ}} \cdot \overline{\text{フタツ}} \cdot \overline{\text{ミツ}} \cdot \overline{\text{ヨツ}} \cdot \overline{\text{ト一}}$ 。(c)は、 $\overline{\text{イッコ}} \cdot \overline{\text{ニコ}} \cdot \overline{\text{サンコ}} \cdot \overline{\text{ヨンコ}} \cdot \overline{\text{ジュッコ}}$ とも言う。
11. 餅 (臼に入っているつきたての餅) : $\overline{\text{ヒトウス}} \cdot \overline{\text{フタウス}} \cdot \overline{\text{ミウス}} \cdot \overline{\text{ヨ一ウス}} \cdot \overline{\text{ト一ウス}}$ 。
12. 餅 (平たくのしたもの) : $\overline{\text{イチマイ}} \cdot \overline{\text{ニマイ}} \cdot \overline{\text{サンマイ}} \cdot \overline{\text{ヨンマイ}} \cdot \overline{\text{ジュ一マイ}}$ 。
13. 餅 (四角く切つた物) : $\overline{\text{ヒトケリ}} \cdot \overline{\text{フタケリ}} \cdot \overline{\text{ミ一ケリ}} \cdot \overline{\text{ヨ一ケリ}} \cdot \overline{\text{ト一ケリ}}$ 。(c)は $\overline{\text{ヒトツ}} \cdot \overline{\text{フタツ}} \cdot \overline{\text{ミツ}} \cdot \overline{\text{ヨツ}} \cdot \overline{\text{ト一}}$ 。
14. 餅 (丸めた物) : $\overline{\text{ヒトツ}} \cdot \overline{\text{フタツ}} \cdot \overline{\text{ミツ}} \cdot \overline{\text{ヨツ}} \cdot \overline{\text{ト一}}$ 。
15. 鏡餅 (重なつた物) : $\overline{\text{ヒトカザリ}} \cdot \overline{\text{フタカザリ}} \cdot \overline{\text{ミ一カザリ}} \cdot \overline{\text{ヨ一カザリ}} \cdot \overline{\text{ト一カザリ}}$ 。
16. 鏡餅 (個々) : $\overline{\text{ヒトツ}} \cdot \overline{\text{フタツ}} \cdot \overline{\text{ミツ}} \cdot \overline{\text{ヨツ}} \cdot \overline{\text{ト一}}$ 。
17. 菓子箱 : 箱入りなら、 $\overline{\text{ヒトハコ}} \cdot \overline{\text{フタハコ}} \cdot \overline{\text{ミハコ}} \cdot \overline{\text{ヨハコ}} \cdot \overline{\text{トハコ}}$ (または $\overline{\text{ジュッパコ}}$)。袋入りなら「 $\overline{\text{ヒトフクロ}}$ 」のようにいう。昔嫁入り菓子の入つた唐櫃を棒で前後に担いで行つた、あのような晴れの場合には、 $\overline{\text{ヒトサオ}} \cdot \overline{\text{フタサオ}} \cdot \overline{\text{ミ一サオ}} \cdot \overline{\text{ヨ一サオ}} \cdot \overline{\text{ト一サオ}}$ と数えた。(c)は、これを $\overline{\text{イッカ}} \cdot \overline{\text{ニカ}}$ 。

- サンガ・ヨシカ・ジュッカ (荷) と数える。折り詰め料理なら、ヒトオリ・フタオリ・ミオリ・ヨオリ・トオリ。
18. 饅頭: ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト。 (c)は、イッコ・ニコ・サンコ・ヨシコ・ジュッコとも。
19. 羊羹: 普通はイッポシ・ニホシ・サンボシ・シホシ ((c)ヨシホン) ・ジュッポシ。
(c)は、ヒトサオ・フタサオ・ミサオ・ヨサオ・トサオ。(これは気取って言う場合)。
20. 煎餅: イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨシマイ・ジューマイ。ビスケットなども。缶入りのは、ヒトカン・フタカン・サンカン・ヨシカン・ジュッカシ。割れたものを数えるには、ヒトカケラ・フタカケラ・ミカケラ。
21. 飴玉: イッコ・ニコ・サンコ・ヨシコ・ジュッコ。またはヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト。瓶入りのは、ヒトビン・フタビンなどと言う場合もある。
22. 卵: イッコ・ニコ・サンコ・ヨシコ・ジュッコ。またはヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・トともいうが、卵の場合は、コの方が多い。
23. 豆腐: イッチョー・ニョー・サンョー・ヨショー・ジュッチョー。
24. こんにゃく: イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨシマイ・ジューマイ。松井夫人によれば、イッチョー・ニョー・サンョー・ヨショー・ジュッチョーとも。
25. 油揚げ: イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨシマイ・ジューマイ。
26. 海苔: イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨシマイ・ジューマイ。10枚単位の束は、イチジョー・ニジョー・サンジョー・ヨシジョー・ジュージョーと言う。
27. 魚の切り身: ヒトキリ・フタキリ・ミキリ・ヨキリ・トキリ。(c)はヒトキレ・フタキレ・ミキレ・ヨキレ・トキレ。カステラなどにも用いる。
28. にぼし (個々): 一匹ずつ数えることがないからことばがない。生きているものなら、イッピキ・ニヒキ・サンビキ・シヒキ ((c)ヨシヒキ) ・ジュッピキだ。
<あるまとまりでの数え方があるか>: 山状に盛りあげてある場合、ヒトヤマ・フタヤマ・ミヤマ (4以上は言いにくい。) 袋入りの場合は、ヒトフクロ・フタフクロ・ミフクロ・ヨフクロ・トフクロ (またはジュッフクロ) と言う。
29. するめ: イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨシマイ・ジューマイ。
30. キャベツ: イッコ・ニコ・サンコ・ヨシコ・ジュッコ。またはヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト。
31. 白菜: イッコ・ニコ・サンコ・ヨシコ・ジュッコ。またはヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト。
32. 玉葱: イッコ・ニコ・サンコ・ヨシコ・ジュッコ。またはヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト。
33. 茄子: イッポシ・ニホシ・サンボシ・シホシ ((c)ヨシホン) ・ジュッポシ。または

ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト。

34. すいか：イッコ・ニコ・サンコ・ヨンコ・ジュッコ。(c)によれば、ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・トオ。または、イッピョー・ニヒョー・サンビョー・ヨンビョー・ジュッピョー。後者の方が古い言い方。
35. きゅうり：イッポソ・ニホソ・サンボソ・シホソ ((c)ヨンホン) ・ジュッポソ。
36. かぼちゃ：イッコ・ニコ・サンコ・ヨンコ・ジュッコ。(c)は、ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト。
37. 大根：イッポソ・ニホソ・サンボソ・シホソ ((c)ヨンホン) ・ジュッポソ。
38. さつまいも：答えに迷ってから、イッポソ・ニホソ・サンボソ・ヨンホン・ジュッポソだろうという。(c)は、ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト。またはイッコ・ニコ・サンコ・ヨンコ・ジュッコ。
39. 大豆(個々)：ヒトツブ・フタツブ・ミツブ・ヨツブ・トツブ。
＜あるまとまりでの数え方＞：袋入りならヒトフクロ・フタフクロのように言うし、ばらの状態の時には、ゴ(合)とかグラムとかで数える。
40. 栗：イッコ・ニコ・サンコ・ヨンコ・ジュッコ。またはヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト。
41. いちご：イッコ・ニコ・サンコ・ヨンコ・ジュッコ。またはヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト。
42. 銚子：イッポソ・ニホソ・サンボソ・シホソ ((c)ヨンホン) ・ジュッポソ。
43. 猪口：酒が入らない猪口だけの場合、イッコ・ニコ・サンコ・ヨンコ・ジュッコ。酒が入った猪口は「ハイ(杯)」で数える。この点、銚子の場合は酒が入っても入らなくても「ホン(本)」と言うのと、微妙に違う。
44. 薬(錠剤)：イチジョー・ニジョー・サンジョー・ヨンジョー・ジュージョー。また、ヒトツブ・フタツブ・ミツブ・ヨツブ・トツブ(ジュツブともいう。)前者の方は公式の言い方との感じがつよい。
45. 薬(粉)：ヒトフクロ・フタフクロ・ミフクロ・ヨフクロ・トフクロ。または、イッブク・ニブク・サンブク・ヨンブク。(ジュブクはあまり言わないし、聞かない。)今は錠剤が多く、一般に、前者が多いだろう。
46. 薬(注射)：イッポソ・ニホソ・サンボソ・シホソ ((c)ヨンホン) ・ジュッポソ。
- (47) 調味料：ヒトサジ・フタサジ(これ以上はあまり言わない。)
- (48) 葡萄：ヒトフサ・フタフサ・ミーフサ・ヨーフサ・トーフサ。
- (49) 果物籠：ヒトカゴ・フタカゴ・ミーカゴ・ヨーカゴ・トーフカゴ。
- (50) バック：ヒトバック・フタバック・サンバック・ヨンバック・ジュッバック。
- (51) ビール：イッポソ・ニホソ・サンボソ・シホソ ((c)ヨンホン) ・ジュッポソ。12本まとめて数えるとき、ダース(打)を用いる。

(52) 茶：葉の量はグラムで数える。指でつまむときはヒトツマミ・フタツマミ。茶を服用する回数を言うにはイップク・ニフク・サンブクなどと言う。

(53) 砂糖：量目は今はキロであるが、昔はキソ（斤）であった。

(54) 糠：ヒトニギリ・フタニギリ。砂などにもこれを使う。

G. 住居・建造物

1. 住宅：イッケン・ニケン・サンゲン・ヨンケン・ジュッケン。建物として数えるときはヒトムネ・フタムネ・ミムネ・ヨムネ・トームネ。

2. 部屋：普通は「洋間ヒトツ・フタツ・ミツ」のように数える。もちろんヒトヘヤ・フタヘヤ・ミヘヤ・ヨヘヤ・トヘヤとも数えることもある。この数え方は和室の場合に多いと思う。また、ヒトマ・フタマ・ミマ・ヨマ。（これ以上はあまり言わない。）このマは洋間にも和室にも使うように思う。(c)はまたイッシツ・ニシツ・サンシツ・ヨンシツ・ジュッシツとも数える。

<洋間、和室で異なるか>：和室の場合は「ヘヤ（部屋）」が相応しい（(c)は「マ（間）」だという）が、洋間の場合は「シツ（室）」がよくなじむ。(c)によれば、「ヘヤ（部屋）」は和室洋間どちらにも言う。

3. 窓：答えにくいようである。あえて言えば、イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイだろう。(c)によれば、ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・トー。「窓をいくつ切るか」「四つ切ってくれ」のように言う。窓ガラスなら「マイ（枚）」で数える。

4. 雨戸：イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイ。

5. 扉：イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイ。

6. ふすま：イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイ。

7. 畳：イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイ。これが普通であるが、部屋に敷いた結果を言う時には、「ジョー（畳）」を用いる。

8. 簾：イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイ。

9. 瓦：イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイ。

⑩. 階段：イチダン・ニダン・サンダン・ヨンドン・ジューダン。

⑪. 電話：かけた人が違う場合はイッポン・ニホン・サンボン・シホン（またはヨンホン）・ジュッポン。同じ人がかけた場合はイッペン・ニヘン・サンペン・シヘン・ジュッペン。

H. 家具類

1. たんす：ヒトサオ・フタサオ・ミサオ・ヨサオ・トサオ。

2. 机：ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・トー。(c)は、イッキャク・ニッキャク・サンキャク・ヨンキャク・ジュッキャク。

3. 椅子：ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・トー。またイッキャク・ニッキャク・サン

キヤク・ヨンキヤク・ジュッキヤクとも。

4. 木棚：数えたことがない。(c)はヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト一。
5. 鏡：あまり使わない。「メン」は言わない。(c)は、あえて言えば、ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト一。鏡台なら「ダイ(台)」で言う。
6. 浴槽：数えることがない。あえて言えばヒトオケ・フタオケのように言うか。
7. 蚊帳：ヒトハリ・フタハリ・ミハリ・ヨハリ・ト一ハリ。今は物自体がない。
- ⑧. 書籍：イッサツ・ニッサツ・サンサツ・ヨンサツ・ジュッサツ。

I. 炊事・掃除・洗濯関係

1. ご飯茶碗：ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト一。またはイッコ・ニコ・サンゴ・ヨンゴ・ジュッコ。「キヤク」は言わない。
2. お碗：ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト一。またはイッコ・ニコ・サンゴ・ヨンゴ・ジュッコ。
3. どんぶり：ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト一。
4. 湯呑み茶碗：イッコ・ニコ・サンゴ・ヨンゴ・ジュッコ。またヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト一。とも。(c)によれば、これがまとまって箱などに入っている時には、3人分ならサンキヤクブン・5人分ならゴキヤクブンのように言う。
5. きゅうす：ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト一。またはイッコ・ニコ・サンゴ・ヨンゴ・ジュッコ。
6. 湯呑みときゅうすの一揃い：あまり言わない。今風にいえば、ヒトセツト・フタセツト・サンセツト・ヨンセツト・ジュッセツトということになるろうか。
7. 皿：イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイ。(c)は、これがまとまって箱などに入っている時には、3人分ならサンキヤクブン・5人分ならゴキヤクブンのように言うという。
8. つば：ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト一。
9. 灰皿：ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト一。(c)は、イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイ。またはイッコ・ニコ・サンゴ・ヨンゴ・ジュッコ。
10. 重箱(一式)：ヒトクミ・フタクミ・ミークミ・ヨークミ・トークミ。(c)は、ヒトカサネ・フタカサネ・ミカサネ・ヨカサネ・トカサネ。
11. 重箱(一段一段)：イチジュウ・ニジュウ・サンジュウ・ヨンジュウ。これ以上は言わない。
12. 弁当箱：ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト一。
13. 箸(一揃い)：イチゼン・ニゼン・サンゼン・ヨンゼン・ジュゼン。
〈一本一本は〉：イッポン・ニホン・サンボン・ヨンホン・ジュッポン。
14. 水桶：水が入っていない状態のときは、ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト一。
(c)は水を張った桶ならヒトハリ・フタハリ・ミハリ・ヨハリ・ト一ハリ。

15. ざる：ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト一。(c)は、イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジュマイ。
16. ほうき：イッボン・ニホン・サンボン・ヨンホン・ジュッボン。
17. 雑巾：イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジュマイ。
18. くず籠：ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト一。
19. 物干し竿：イッボン・ニホン・サンボン・シホン ((c)はヨンホン) ・ジュッボン。
- ⑳. 洗濯物を干した物：ヒトサオ・フタサオ・ミーサオ・ヨーサオ・ト一サオ。
- ㉑. 杓子で掬う回数：ヒトシャク・フタシャク。それ以上はあまり言わない。

J. 日用品

1. 櫛：イッボン・ニホン・サンボン・シホン ((c)はヨンホン) ・ジュッボン。
2. 扇子：イッボン・ニホン・サンボン・シホン ((c)はヨンホン) ・ジュッボン。
3. 傘：イッボン・ニホン・サンボン・シホン ((c)はヨンホン) ・ジュッボン。
4. 提灯：ヒトハリ・フタハリ・ミーハリ・ヨーハリ・ト一ハリ。
5. 電球：丸い球ならヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト一。またはイッキュー・ニッキュー・サンキュー・ヨンキュー・ジュッキュー。またはイッコ・ニコ・サンコ・ヨンコ・ジュッコ。蛍光灯の場合などはイッボン・ニホン・サンボン・シホン・ジュッボン。(c)はこの場合、イットニ・ニトニ・サントニ・ヨント一。(ジュットニまでは普通数えない。)
6. 鞆：ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト一。
7. 小包：イッコ・ニコ・サンコ・ヨンコ・ジュッコ。(c)は、ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト一。
8. 火箸(一揃い)：答えにくい。(c)は、イツツイ・ニツイ・サンツイ・ヨンツイ・ジュツツイとの答え。
 <一本一本は>：(c)によれば、あえて数えれば、イッボン・ニホン・サンボン・ヨンホン・ジュッボン。
9. はさみ：イッチョー・ニチョー・サンチョー・ヨンチョー・ジュッチョー。
10. 金槌：(a)はチョーは言わない。しかし同夫人はチョーを「聞く」という。(c)はヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト一。
11. 釘：イッボン・ニホン・サンボン・ヨンホン・ジュッボン。
12. 縄：ヒトスリ・フタスリ・ミースリ・ヨースリ・ト一スリ。(c)は、イッボン・ニホン・サンボン・ヨンホン・ジュッボン。巻いたものならヒトマキ・フタマキ・サンマキ・ヨンマキ。(ト一マキまでは普通数えない。)
- ⑬. 刀：ヒトフリ・フタフリ・ミーフリ・ヨーフリ・ト一フリ。

K. 燃料

1. 薪(束)：ヒトタバ・フタタバ・ミータバ・ヨータバ・ジュッタバ。(c)は、イチワ

・ニワ・サンバ・ヨンワ・ジュッパ。

2. 薪（一本一本）：普通は「こわ」と称する、製材で出る残り材を束ねたものを用いるので、長短揃わず、どう数えるかよく分からない。束になっているので、ヒトタバ・フタバ・ミータバ・ヨタバ、ジュッタバという。(c)は、イッボン・ニホン・サンボン・ヨンホン・ジュッボン。

3. 柴（束）：ヒトタバ・フタバ・サンタバ・ヨンタバ・ジュッタバ。(c)は、イッソク・ニソク・サンゾク・ヨンソク・ジュッソクとも。

4. 柴（一本一本）：イッボン・ニホン・サンボン・ヨンホン・ジュッボン。

L. 乗り物・交通

1. 船：(a)によれば、イッソ^二・ニソ^二・サンゾ^二・ヨンソー・ジュッソ^二。(c)によれば、漁業の人はイッパイ・ニハイ・サンバイ・ヨンハイ・ジュッバイと言うとのこと。

<大きさ、種類で異なるか> センターの石川氏によれば、港に係留してある船は大小にかかわらずイッパイ・ニハイと数える。伝馬船のような小型のものでも同じ。ただ、網をかけるのに2ハイで引張る場合（フナビキアミという。これの規模の大きいのをバッチ網という。遠洋漁業はここはやらない。）は、その2ハイでイッソ^二と言う。

②. 船の舳：イッチョ^二・ニチョ^二・サンチョ^二・ヨンチョー・ジュッチョ^二。

③. 船のロープ：太さ細さには関係なく、200メートル単位に巻いてある。それをヒトマル・フタマルと数える。(石川氏による。)

④. とれた魚を入れた箱：ヒトセーロ・フタセーロ・ミーセーロ・ヨーセーロ・ジュッセーロ。これは、釜揚げしたいかななどを15センチ×20センチほどの大きさの薄い容器に入れたものを魚屋に売っている、それを数える時にも言う。箱が木製の箱であった時代からの数え方である。

今は、たとえば鱒などは30キロ入りのプラスチック製の籠を使うが、その籠自体（魚を入れていない状態）を数えるのには、ヒトカゴ・フタカゴ・ミーカゴ・ヨーカゴ・トーカゴと数える。また、いかなごなどの水揚げで、その入った籠を数えるのには、ヒトオケ・フタオケ・ミオケ・ヨオケ・〜ヒャクオケ・センオケなどと数える。(石川氏による。)

⑤. 道路・線路：イッボン・ニホン・サンボン・ヨンホン・ジュッボン。

⑥. 駅：ヒトエキ・フタエキ。(ここまでしか言わない。)

⑦. 停留所：ヒトテリュージョ・フタテリュージョ。(普通ここまで。)

⑧. 車両：イチリョー・ニリョー・サンリョー・ヨンリョー・ジューリョー。

⑨. 飛行機：イッキ・ニキ・サンキ・ヨンキ・ジュッキ。

M. 文房具

1. ものさし：イッポ^ン・ニホ^ン・サンポ^ン・ヨ^ンホ^ン・ジュッポ^ン。
2. 算盤：(a)は分からない。(c)はイッ^チョー・ニ^チョー・サン^チョー・ヨ^ンチョー・ジ^ュッ^チョー。
- ③. 手紙：イッポ^ン・ニホ^ン・サンポ^ン・シホ^ン(またはヨ^ンホ^ン)・ジュッポ^ン。
またはイッ^ツー・ニ^ツー・サン^ツー・ヨ^ンツー・ジュッ^ツー。後者は上品な言い方である。
- ④. はがき：イ^チマイ・ニ^{マイ}・サン^{マイ}・ヨ^ンマイ・ジュー^{マイ}。
- ⑤. 鉛筆：イッポ^ン・ニホ^ン・サンポ^ン・シホ^ン(またはヨ^ンホ^ン)・ジュッポ^ン。1
2本まとめて数えるには「ダース(打)」を用いる。
- ⑥. 半紙：イ^チジョー・ニ^{ジョー}・サン^{ジョー}・ヨ^ンジョー・ジュー^{ジョー}。

N. 娯楽

1. めんこ：イ^チマイ・ニ^{マイ}・サン^{マイ}・ヨ^ンマイ・ジュー^{マイ}。
2. ビー玉：ヒ^トツ・フ^タツ・ミ^ツツ・ヨ^ツツ・ト^ー。(c)は、イ^ッコ・ニ^コ・サン^コ・ヨ^ンコ・ジュッ^コと言わないこともない。
3. お手玉：ヒ^トツ・フ^タツ・ミ^ツツ・ヨ^ツツ・ト^ー。(c)は、イ^ッコ・ニ^コ・サン^コ・ヨ^ンコ・ジュッ^コ。

<あるまとまりでの数え方があるか>

4. おはじき：ヒ^トツ・フ^タツ・ミ^ツツ・ヨ^ツツ・ト^ー。
5. 風船：ヒ^トツ・フ^タツ・ミ^ツツ・ヨ^ツツ・ト^ー。
6. ゴムまり：ヒ^トツ・フ^タツ・ミ^ツツ・ヨ^ツツ・ト^ー。
7. 竹馬(一組)：数えることがない。あえて言えばヒ^トツ・フ^タツか。
<一本一本は> イッポ^ン・ニホ^ン。
8. 凧：ヒ^トツ・フ^タツ・ミ^ツツ・ヨ^ツツ・ト^ー。(c)によれば、昔の人は、紙の凧をヒ^トハリ・フ^タハリ・ミ^ーハリ・ヨ^ーハリのよう数えていた。
9. 独楽：ヒ^トツ・フ^タツ・ミ^ツツ・ヨ^ツツ・ト^ー。
10. 羽子板(個々)：イ^チマイ・ニ^{マイ}・サン^{マイ}・ヨ^ンマイ・ジュー^{マイ}。

<ペアでは>

11. カルタ：ヒ^トクミ・フ^タクミ・ミ^クミ・ヨ^ンクミ・ジュッ^クミ。
<一枚一枚は> イ^チマイ・ニ^{マイ}・サン^{マイ}・ヨ^ンマイ・ジュー^{マイ}。
12. じゃんけんすることの回数：イ^ッカイ・ニ^{カイ}・サン^{カイ}・ヨ^ンカイ・ジュッ^{カイ}と言う。昔はイッ^{ベン}・ニ^{ヘン}・サン^{ベン}・ヨ^ンヘン・ジュッ^{ベン}と言った。
13. ひな人形(一式)：ヒ^トカザリ・フ^タカザリ・ミ^ーカザリ・ヨ^ーカザリ・ト^ーカザリ。(c)は、ヒ^トソ^ロエ・フ^タソ^ロエ(くらいまで、あとは言わない。)
14. ひな人形(個々)：イ^ッタイ・ニ^{タイ}・サン^{タイ}・ヨ^ンタイ・ジュッ^{タイ}。(c)は、ヒ^トツ・フ^タツ・ミ^ツツ・ヨ^ツツ・ト^ー。

15. 碁・将棋の勝負： $\overline{\text{イッカイ}} \cdot \overline{\text{ニカイ}} \cdot \overline{\text{サンカイ}} \cdot \overline{\text{ヨンカイ}} \cdot \overline{\text{ジュッカイ}}$ 。また $\overline{\text{イチバン}} \cdot \overline{\text{ニバン}} \cdot \overline{\text{サンバン}} \cdot \overline{\text{ヨンバン}} \cdot \overline{\text{ジューバン}}$ とも言う。大抵将棋の場合である。キョクは言わない。(c)は、碁の場合は、 $\overline{\text{イッキョク}} \cdot \overline{\text{ニッキョク}} \cdot \overline{\text{サンキョク}} \cdot \overline{\text{ヨンキョク}} \cdot \overline{\text{ジュッキョク}}$ 、将棋の場合は、 $\overline{\text{イチバン}} \cdot \overline{\text{ニバン}} \cdot \overline{\text{サンバン}} \cdot \overline{\text{ヨンバン}} \cdot \overline{\text{ジューバン}}$ と数えることが多い。
16. 相撲の勝負： $\overline{\text{イッチョー}}$ （「 $\overline{\text{スモー}} \cdot \overline{\text{イッチョ}} \cdot \overline{\text{ヤロカ}}$ 。」のように。しかし二以上は言わない。）普通には $\overline{\text{イッカイ}} \cdot \overline{\text{ニカイ}} \cdot \overline{\text{サンカイ}} \cdot \overline{\text{ヨンカイ}} \cdot \overline{\text{ジュッカイ}}$ と言うだろう。(c)は、 $\overline{\text{イチバン}} \cdot \overline{\text{ニバン}} \cdot \overline{\text{サンバン}} \cdot \overline{\text{ヨンバン}} \cdot \overline{\text{ジューバン}}$ 。
17. 掛軸： $\overline{\text{イッポン}} \cdot \overline{\text{ニホン}} \cdot \overline{\text{サンボン}} \cdot \overline{\text{ヨンホン}} \cdot \overline{\text{ジュッポン}}$ 。(c)によれば、 $\overline{\text{イップク}} \cdot \overline{\text{ニフク}} \cdot \overline{\text{サンブク}} \cdot \overline{\text{ヨンフク}} \cdot \overline{\text{ジュップク}}$ という数え方もするが、ちょっと気取った数え方になる。
- <あるまとまりでの数え方があるか：対（二幅）>
18. 絵画：額入りの場合は数えた経験がない。(c)は、 $\overline{\text{イッテン}} \cdot \overline{\text{ニテン}} \cdot \overline{\text{サンテン}} \cdot \overline{\text{ヨンテン}} \cdot \overline{\text{ジュッテン}}$ 。
19. 写真：(c)によれば、1枚1枚をばらして数える時は「マイ（枚）」を用いる。額に入れたような写真なら、 $\overline{\text{イッテン}} \cdot \overline{\text{ニテン}} \cdot \overline{\text{サンテン}} \cdot \overline{\text{ヨンテン}} \cdot \overline{\text{ジュッテン}}$ 。
20. 歌： $\overline{\text{イッキョク}} \cdot \overline{\text{ニッキョク}} \cdot \overline{\text{サンキョク}} \cdot \overline{\text{ヨンキョク}} \cdot \overline{\text{ジュッキョク}}$ 。
21. 太鼓：そんなに数えることがない。(c)は、 $\overline{\text{ヒトハリ}} \cdot \overline{\text{フタハリ}} \cdot \overline{\text{ミーハリ}} \cdot \overline{\text{ヨーハリ}} \cdot \overline{\text{トーハリ}}$ 。
22. 横笛： $\overline{\text{イッポン}} \cdot \overline{\text{ニホン}} \cdot \overline{\text{サンボン}} \cdot \overline{\text{ヨンホン}} \cdot \overline{\text{ジュッポン}}$ 。
23. ハーモニカ： $\overline{\text{イッポン}} \cdot \overline{\text{ニホン}} \cdot \overline{\text{サンボン}} \cdot \overline{\text{ヨンホン}} \cdot \overline{\text{ジュッポン}}$ 。または $\overline{\text{ヒトツ}} \cdot \overline{\text{フタツ}} \cdot \overline{\text{ミツ}} \cdot \overline{\text{ヨツ}} \cdot \overline{\text{トー}}$ 。
24. ラッパ：？
25. ピアノ： $\overline{\text{イチダイ}} \cdot \overline{\text{ニダイ}} \cdot \overline{\text{サンダイ}} \cdot \overline{\text{ヨンダイ}} \cdot \overline{\text{ジューダイ}}$ 。
26. ギター： $\overline{\text{イチダイ}} \cdot \overline{\text{ニダイ}} \cdot \overline{\text{サンダイ}} \cdot \overline{\text{ヨンダイ}} \cdot \overline{\text{ジューダイ}}$ 。(c)は、 $\overline{\text{イッポン}} \cdot \overline{\text{ニホン}} \cdot \overline{\text{サンボン}} \cdot \overline{\text{ヨンホン}} \cdot \overline{\text{ジュッポン}}$ 。
27. 宿泊の回数： $\overline{\text{イッパク}} \cdot \overline{\text{ニハク}} \cdot \overline{\text{サンパク}} \cdot \overline{\text{ヨンパク}} \cdot \overline{\text{ジュッパク}}$ 。もっとも、こういう場合には「 $\overline{\text{ヒトバン}}$ （晩） $\overline{\text{泊まる}}$ 」というような言い方が、日常語らしい感じがある。 $\overline{\text{ヒトバン}} \cdot \overline{\text{フタバン}} \cdot \overline{\text{ミバン}}$ くらいまで。
- ⑳ テント： $\overline{\text{ヒトハリ}} \cdot \overline{\text{フタハリ}} \cdot \overline{\text{ミーハリ}} \cdot \overline{\text{ヨーハリ}} \cdot \overline{\text{トーハリ}}$ 。
- ㉑ 芝居： $\overline{\text{イチマク}} \cdot \overline{\text{ニマク}} \cdot \overline{\text{サンマク}} \cdot \overline{\text{ヨンマク}}$ 。また $\overline{\text{イチバ}} \cdot \overline{\text{ニバ}} \cdot \overline{\text{サンバ}}$ など。
- ㉒ 和歌・短歌： $\overline{\text{イッシュ}} \cdot \overline{\text{ニッシュ}} \cdot \overline{\text{サンシュ}} \cdot \overline{\text{ヨンシュ}} \cdot \overline{\text{ジュッシュ}}$ 。
- ㉓ 俳句： $\overline{\text{イック}} \cdot \overline{\text{ニク}} \cdot \overline{\text{サンク}} \cdot \overline{\text{ヨンク}} \cdot \overline{\text{ジュック}}$ 。
- ㉔ 拳骨： $\overline{\text{イッパツ}} \cdot \overline{\text{ニハツ}} \cdot \overline{\text{サンパツ}} \cdot \overline{\text{ヨンパツ}}$ 。
- ㉕ トラック周走： $\overline{\text{イッシュュー}} \cdot \overline{\text{ニッシュュー}} \cdot \overline{\text{サンッシュュー}} \cdot \overline{\text{ヨンッシュュー}} \cdot \overline{\text{ジュッッシュュー}}$ 。

O. 経済

1. 財布：ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト一。(c)は、イッコ・ニコ・サンコ・ヨンコ・ジュッコ。
2. 硬貨：イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイ。
3. 紙幣：イチマイ・ニマイ・サンマイ・ヨンマイ・ジューマイ。
4. 札束：ヒトタバ・フタバ・ミータバ・ヨタバ・トータバ。
5. はんこ：イッコ・ニコ・サンコ・ヨンコ・ジュッコ。(c)は、ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト一。
- ⑥. 投票：イッピョー・ニヒョー・サンピョー・ヨンピョー・ジュッピョー。
- ⑦. 銀行：イッコー・ニコー・サンコー・ヨンコー・ジュッコー。
- ⑧. 会社：イッシャ・ニシャ・サンシャ・ヨンシャ・ジュッシャ。

P. 年中行事

1. 門松：イツツイ・ニツイ・サンツイ・ヨンツイ・ジュツツイ。これが正式の数え方である。が、ヒトツ・フタツ・ミツ・ヨツ・ト一。ということもある。
2. しめなわ：細長いもの場合は、イチレン・ニレン・サンレン・シレン・ジュールン。また、イッボン・ニホン・サンボン・ヨンホン・ジュッボン。細長くないしめなわは、ヒトカザリ・フタカザリ・ミーカーザリ・ヨーカザリ。

Q. その他

長さ、面積、体積、重さの単位で注目すべきものについて

昔は、長さはみなシャク(尺)とスン(寸)だった。それから、柱の高さはジョーハチ(丈八、十八尺)とか、ニジュー(二十尺)とか。低いのはジョーロク(丈六)。柱は元来ニジューでできているが、施主の希望によって、ジョーハチとかジョーロクに切っていくわけである。昔の建物はジョーハチやニジューが多かった。

Ⅲ. まとめ

(1) 当調査結果から見た当方言における助数詞の種類

当方言がどれだけの異なった事象を存立させているか、人々はそれらをどのように使って生活をしているかに注目する。これらをまず大きく3類に分類する。この3類は、いわば数える方法の3類である。各類の下位では使用頻度の高いものから順に列挙する。ただし、これはあくまで当調査項目(いくつかの追加項目も含む)に関する限りであって、項目選定が違えばまたしぜん頻度も違って来るはずである。したがって、この頻度の数値なり順位なりは、おおよその傾向を見るためのものである。

(A) 特定の助数詞 —— 71事象

これに属するものは、分かりやすく言うと「○○が～」という文が成り立たないものである。それだけ○○に相当する助数詞が特定のであるということである。もっとも、た

たとえば布団の敷と掛けとそろったものを「ナガレ」と数えるが、「ナガレ」は「流れが急だ。」のような文が成り立つからこの類に属さないかという、そうとはいえない。「ナガレ」の意味が違うからである。同様に、「ゼン」(膳。ときにツェンとなる。)が、箸を数えるときの特定助数詞と認められるのは、「膳」の意味が本来の意味と違うからである。

a. 度量衡における単位呼称 —— (10事象)

タン(段)2 / キン(斤)2 / タン(反)1 / セ(畝)1 / ショー(升)1 /
ゴー(合)1 / ダース(打)1 / キロ(kg)1 / グラム(g)1 / ド(度)1

b. その他の特定称 —— (61事象)

ホン・ボン(本)51 / マイ(枚)45 / コ(個)24 / ヒキ・ピキ(匹)13 /
チョー(丁)11 / ダイ(台)7 / ハイ・パイ・パイ(杯)7 / ハリ(張)6 /
キリ・キレ(切り)4 / サオ(竿)4 / キャク(脚)3 / バン(番)3 /
ワ・バ・バ(把)3 / トー(頭)2 / カ(荷)2 / キャク(客)2 /
テン(点)2 / ソク(束)2 / ツー(通)2 / ソク(足)2 / ヒョー(棧)2
/ フク(服)2 / ジョー(帖)2 / ヘン・ベン(遍)2
<以下すべて1。> ワ・バ・バ(羽) / ジョー(条) / リ(人) / ニン(人)
/ カタ(方) / ホ・ボ・ボ(歩) / チャク(着) / ナガレ(流) / ショク(食)
/ カタケ(片食) / ゼン(膳) / カザリ(飾り) / ケン(軒) / ジョー(疊)
/ フク(幅) / レン(連) / カサネ(重) / ジュー(重) / キョク(局)
/ スリ(筋?) / タイ(体) / ソー(艘) / マル(丸) / ハク(泊) /
フリ(振) / リョー(輜) / キ(機) / シュー(周) / コー(行) / シャ(社)
/ ハツ(発) / マワリ(回り) / テキ(滴) / サツ(冊) / シュ(首)
/ ク(句) / タイ(体) / ハシラ(柱)

[B] 対象の名を助数詞として用いるもの —— 53事象

これに属するものは、「○○が〜。」という文が成り立つものである。

カイ(回)4 / タバ(束)4 / フクロ(袋)4 / ツブ(粒)4 / カブ(株)3
/ クミ(組)3 / オケ(桶)3 / ヤマ(山)2 / タマ(玉)2 / カゴ(籠)2
/ ヘヤ(部屋)2 / シツ(室)2 / ツイ(対)2 / セット2 / ニギリ(握)
<以下はすべて1。> カセ(総) / ウネ(畝) / ツガイ(番い) / ハチ(鉢)
/ サジ(匙) / シナ(品) / ヒン(品) / ジョー(錠) / フサ(房) / マ(間)
/ キュー(球) / トー(灯) / キョク(曲) / マキ(巻) / バック(折)
オリ(折) / ハコ(箱) / メ(目) / ダン(段) / スジ(筋) / カケラ(かけら)
/ ウス(臼) / セーロ(蒸籠) / ソロエ(揃え) / バン(晩) /
カカエ(抱え) / ツマミ(撮み) / マク(幕) / バ(場) / ダン(段) /
シャク(杓) / フシ(節) / カン(缶) / ビン(瓶) / ヒョー(票) /

ムネ (棟) / エキ (駅) / テーリュージョ (停留所) /

〔C〕数詞だけで汎称するもの —— 2 事象

ヒトツ・フタツ・ミッツ・ヨッツ・トー 79 (ヒーフーミーヨートー 1を含む) /
イチ・ニー・サン・シー・ジュー 2 <以上>

以上によれば、類度の最も高いのは〔C〕の「数詞だけで汎称するもの」(ヒトツ・フタツ・ミッツなどの数え方) 79であり、次いで〔A〕の「特定の助数詞」であるホン(本) 51以下、マイ(枚) 45・コ(個) 24・ヒキ(匹) 13・チャー(丁) 11・ダイ(台) 7・ハイ(杯) 7などである。ここに、当方言の数える生活の一態が象徴されている。

興味深いのは、〔A〕類には漢語(字音語)が比較的多く、〔B〕〔C〕類には和語が比較的多いという傾向が看取されることである。わが国の数える文化の歴史的投影を見る思いがするからである。

事象数に注目しよう。A類が71事象、B類が53事象、C類が2事象、合計126事象に及ぶ。この結果をどう評価するかは、他の方言での結果を待たねばならないが、率直に言って、人々の数える生活における助数詞の豊富さは、筆者の予想を遙かに越えるものであった。諸外国語との対照研究への興味が湧くのを覚える。

(2) 数詞の系列

ヒトツと出ればフタツ・ミッツ・ヨッツ〜トーと続き、イチと出ればニー・サン・シー〜ジューと続くのが普通である。ところが、助数詞が下接すると、下接する助数詞によっては、この2系列が混線することがある。1・2はヒトバック・フタバックと言って、3に到ってミーバックとは言いにくく、サンバックと言い、4はまたヨンバックと戻り、10はジュッバック(老年層回答)と言う。缶入りの海苔をヒトカン・フタカンと数え、3はサンカン、4はヨンカン、10はジュッカン(若年層回答)となる。すべて混乱しているわけではなく、1・2あたりを和語で言うことは、安定した傾向である。このことは若年層でも変わらない。要するに、3から上、特に4と10とが揺れているのである。(今回の調査では、5・〜9は省略しているので、これについては論外とする。)4の場合の揺れは、前後の音環境とか、シの音を嫌う感情とか、話者の個人差とか、いろいろの理由があつてのことであろうと思う。ともかくその揺れ方からして、ヒトツ系列(和語系列)に対してイチ系列(漢語系列)が、おもに3から上について割り込むように進行しているかと推察される。が、1・2あたりの和語の座は、今なお安泰というわけである。

(3) 数に限定のあるもの

上来の記述にもしばしば見たところであるが、数の1・2・3あたりまではよく言うが、それ以上、特に10などまで数えることはないという回答がかなりある。集落の数を10も数えるような経験はほとんどなく、とかげが10匹も集まっているというもの、通常の生活にはないと言ってよい。無理に言えば言えなくもないというような回答になるの

もやむをえない。円やキロなど、単位呼称をもって計測する場合のように、億から兆まで上限がほとんどないものもあるが、現実には意外と数に限りあるものが多いのである。

さて、その限定の取り方にもいろいろあって、1だけのもの、2までのもの、3までのものなど、それぞれに該当する事象が相当にある。「四苦八苦」「七転八倒」などのように、連続でない限定数もある。とりわけ多いのは、言うまでもなく1だけのものである。この類のものは、ほとんど数の概念を超越して「一」の意義に転義が認められる。

- a. 「ちょっと」「わずか」の意を表す—— ヒトネムリ・イッピンリョーリなど
- b. 「それだけ」の意を表す—— ヒトマワリ・イッショー（一生）など
- c. 「或る」の意を表す—— ヒトフユ・イチジキなど
- d. 「不変」の意を表す—— ヒトイロ・ヒトツコト（同じ事）など

(4) 個人差・文体差について

魚の切り身をヒトキリと言う人とヒトキレと言う人とがある。4の数をシと言いがちな人とヨンと言いがちな人とがある。これに限らないことであるが、本来きわめて社会的な習慣であるはずの数え方に個人差があるということは、どういうことなのか。その差が小さく、理解できる範囲内の個人差は、個人差というよりもむしろ文体差と言ってよいものかもしれない。

ゴハン（御飯）3杯はサンバイとかサンゼンとか言うが、メシ3杯はサンバイと言ってサンゼンとは言わない。メシという言い方をよくする生活をしている個人には、ゼンは日常にはほとんど言わない特別の場面での、ゴハンとともに用いるべき助数詞であるなどということは、じゅうぶんにあることである。写真などの入った額を「一点・二点」などとテンで数えるのは、一定の教養ある個人の特定の場面での文体を思わせる数え方である。

(5) 年令差について

大学生について同じ項目を調査した結果から、次のようなことが分かる。

ア. 老年層に比べてかなり違う。その違いの第一は、上述の分類における〔C〕「数詞だけで汎称するもの（ヒトツ・フタツ・ミッツ・ヨッツ・トー<ジュ>）」がずいぶん多くなっているということである。

イ. それと合わせて、「コ（個）」の活躍が顕著である。いろんなものがイッコ・ニコ〜ジュッコなどと数えられるようになっている。

ウ. 上の二つのことを裏から言えば、老年層での助数詞の種類がかなり減少しているということである。たとえば「すいか」を「ヒョー（俵）」で数えるなどのように、若年層ではすでに死語化しているのもあれば、たとえば「箸」一人前を「イチゼン」というなどは、理解語彙に止まって実際には使用されていないというものもある。若年層で、逆に新しく助数詞が作られることはないようである。

エ. そのような推移も、じつは分野によって事情が異なる。老年層との違いが比較的小

さい分野は、調査票の分野で言えば、B動植物、C人、E衣服、F食、G住居・建造物、O経済などであり、老年層とかなり違うのは、D農業、J日用品、K燃料、N娯楽などである。

オ. アクセントの変化もここに反映している。牛を数えるのに、老年層ではイット^二・ニト^二・サント^二・ヨント^二・ジュット^二であるが、若年層ではイット^一・ニト^一・サント^一・ヨント^一・ジュット^一である。

カ. 上記のような違いが出るのは当然のことでもある。昔の「おむつ」は布ぎれを縫い合わせた自家製であったが、今の若者には赤ん坊か老人が使うパンプスのような物がイメージされるから、イッコ・ニコという回答になって少しも不思議ではない。加えて上にも述べた個人差のことを考えると、これらの違いは、まったく必然的な趨勢とされよう。

(6) 調査項目の問題

今回の調査票を職業の観点から見ると、農業語彙はかなり充実しているが、その他の職業はそれほどでないようである。物の数え方は、職業によって相当に違いが出てくる、いな、職業ごとに物の数え方があるとも言えるのではあるまいか。

また序数詞関係の語彙もここには割愛されている。年月日、時刻、順位、等級などがそれである。月数を数えるにはヒトツキ・フタツキ・ミツキ・ヨツキ・ト^一ツキであるが、月次を言うときは、イチガツ・ニガツ・サンガツ・シガツ・ジュ^一ガツと言う。これに対して、日数を数えるにはイチニチ・ニニチ（フツカとも）・サンニチ（ミツカとも）・シニチ（ヨンニチ。またヨッカとも）・ト^一カであるが、日次を言うときは必ずツイタチ・フツカ・ミツカ・ヨッカ・ト^一カである。月の場合と日の場合と、音・訓が逆である（ただし日数は一日以外は「～カ」とも言う）のも、妙である。

（さとうとらお・皇學館大學）